

静岡

実証実験スタート

「おもいやりナビ」

どこでもコンピューターやネットワークを使えるユビキタスネットワーク技術を活用し、静岡市葵区の中心街で車いす利用者に道案内やまちの情報発信を行う市自律移動支援プロジェクト「静岡おもいやりナビ」の実証実験が十一日、同市内で始まった。二十二日まで、車いす利用者や介助者らが情報を受け取る携帯端末を持って街を回り、実用性などを確認する。

携帯端末に示された情報を基に目的地に向かう実験参加者＝静岡市の中心市街地

初日は約二十人の車いす利用者が実験に参加した。携帯端末に目的地として市役所静岡庁舎などを設定すると、映像と音声でガイドが始まった。中心街の二十八カ所

に設置された無線マーカーに近づくことで、端末画面上のルートを示す矢印やエレベーター、スロープの位置、車いす利用者にとって通行の障害になる段差などの情報が更新され、参加者はガイドに従って目的地に向かった。端末には道案内のほか多目的トイレの場所や設備、バス停の位置情報なども示された。

携帯端末を車いすに取り付けベガサート（葵区

御幸町）に向かった市障害者協会事務局の小久江寛さん（四四）は「初めて静岡に来た人にとってはとても助かる」と利便性を評価したが、「地元の人にとってはもう少し街の情報があつたらうれしい」と市担当者に要請した。

同プロジェクトは市と国土交通省が連携して実施。将来、情報インフラとして整備を目指し、ユニバーサルデザイン社会の実現を進める。十一月の大道芸ワールドカップ期間中にも、携帯端末でパフォーマンスの日程や見どころなどを紹介する同様の実験を行った。

携帯端末で 車いす道案内

